

開会の辞

第1日目 8月30日(金) 8:50~8:55

第1会場(講堂)

会長講演

第1日目 8月30日(金) 11:00~11:45

第1会場(講堂)

PL 人を結び、チームを育てる

座長 大野 裕 一般社団法人認知行動療法研修開発センター

演者 岡田 佳詠 国際医療福祉大学成田看護学部

招待講演 1

第1日目 8月30日(金) 14:05~15:55

第2会場(301 多目的ホール)

IL1 うつ病のメタ認知トレーニング(D-MCT)

座長 石垣 琢磨 東京大学大学院総合文化研究科

演者 Lena Jelinek University Medical Center Hamburg-Eppendorf

ビデオ講演 1

第1日目 8月30日(金) 17:20~18:15

第3会場(601 講義室1)

VL1 Nurse Specialists in CBT in Ireland : training, roles, and what we know about them

座長 吉永 尚紀 宮崎大学テニユアトラック推進機構

演者 Fionnula MacLiam School of Medicine, Trinity College Dublin, University of Dublin

教育講演 1

第1日目 8月30日(金) 13:00~13:55

第1会場(講堂)

EL1 認知療法・認知行動療法の誤解を解く

座長 井上 和臣 医療法人内海慈仁会内海メンタルクリニック・認知療法研究所

演者 大野 裕 大野研究所

教育講演 2

第1日目 8月30日(金) 13:00~13:55

第2会場(301 多目的ホール)

EL2 公認心理師に認知行動療法を普及させるために：公認心理師をめぐる最近の動向

座長 菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

演者 丹野 義彦 東京大学大学院総合文化研究科

教育講演 3

第1日目 8月30日(金) 13:00～13:55

第3会場 (601 講義室1)

EL3 多職種連携でとりくむ認知行動療法：こころと体の治療・ケア・セルフケア

座長 小林 清香

埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック

演者 藤澤 大介

慶應義塾大学医学部医療安全管理部/精神・神経科

教育講演 4

第1日目 8月30日(金) 13:00～13:55

第4会場 (603 講義室3)

EL4 児童思春期に対する認知行動療法

座長 吉永 尚紀

宮崎大学テニユアトラック推進機構

演者 石川 信一

同志社大学心理学部

教育講演 5

第1日目 8月30日(金) 14:05～15:00

第3会場 (601 講義室1)

EL5 健康経営における認知行動モデルに基づく社内教育及び社内相談

座長 田島 美幸

トヨタ自動車株式会社

演者 奥山 真司

トヨタ自動車株式会社

教育講演 6

第1日目 8月30日(金) 15:10～16:05

第3会場 (601 講義室1)

EL6 高齢者を対象とした認知行動療法の実践：認知症高齢者への適用を含めて

座長 藤澤 大介

慶應義塾大学医学部医療安全管理部/精神・神経科

演者 檜村 正美

日本医科大学医療心理学教室

教育講演 7

第1日目 8月30日(金) 16:05～17:00

第1会場 (講堂)

EL7 地域で看護師が CBT を実践する

座長 國方 弘子

香川県立保健医療大学

演者 白石 裕子

国際医療福祉大学福岡看護学部

教育講演 8

第1日目 8月30日(金) 16:15～17:10

第3会場 (601 講義室 1)

EL8 脳科学領域と認知行動療法

座長

工藤 喬

大阪大学キャンパスライフ健康支援センター /
大阪大学大学院医学系研究科精神健康医学

演者

菊地 俊暁

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

教育講演 9

第1日目 8月30日(金) 17:10～18:05

第1会場 (講堂)

EL9 リハビリテーションにおける認知行動療法の活用－ 対象者の気づきと行動変容の視点から－

座長

岡田 佳詠

国際医療福祉大学成田看護学部

演者

大嶋 伸雄

首都大学東京大学院人間健康科学研究科

教育講演 10

第1日目 8月30日(金) 17:20～18:15

第5会場 (705 講義室 1)

EL10 双極性障害の認知行動療法

座長

宗 未来

東京歯科大学市川総合病院

演者

北川 信樹

医療法人ライブフォレスト北大通こころのクリニック

大会企画シンポジウム 1

遠隔医療技術を用いた精神療法の展望と課題

第1日目 8月30日(金) 09:00～10:50

第1会場 (講堂)

【趣旨・狙い】

本邦の精神科患者数は700万人以上と推定され増加の一途をたどる中、高齢化や都市部への人口集中、医療資源の地域格差、あるいは症状から外出しにくくなるなど、専門性の高い診断や治療が受けづらい患者は少なくない。このような中、医療者と患者の間にある「距離」と「時間」の問題を解消しうる「遠隔診療」が注目されている。近年では、相手の顔を見ながら対話をするテレビ電話やビデオチャットは、情報通信技術の進歩とともにビジネスや一般のコミュニケーションツールとして多くの場面で使われるようになってきた。遠隔医療（telemedicine）とは、このような情報通信技術を応用して tele（遠隔）で medicine（医療）を行う行為であり、遠隔で行う精神医療は特に tele-psychiatry（遠隔精神医療）と呼ばれる。精神科診療は互いの顔を見ながら話ができれば診療の大部分が成り立つため、WHOでも精神科は、放射線科・病理・皮膚科と並ぶ遠隔医療の主要な領域とみなされている。本シンポジウムでは、3名の専門家から我が国における遠隔精神医療の導入経過と現状、さらに最新の研究等について話題提供を行い、遠隔医療技術を用いた精神療法の展望と課題について参加者とともに議論したい。

座 長

岸本 泰士郎 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

SY1-1 我が国における精神科遠隔医療（Telepsychiatry）導入経過と展望

岸本 泰士郎 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

SY1-2 うつ病に対する認知行動療法：遠隔技術を用いたセッションとスーパービジョン

中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

SY1-3 社交不安症向けインターネット認知療法プログラムの開発・改良

吉永 尚紀 宮崎大学テニュアトラック推進機構

大会企画シンポジウム 2

多様な疾患・障害と向き合う認知行動療法

－多職種連携と包括的アプローチを基盤にして－

第 1 日目 8 月 30 日 (金) 9:00～10:50

第 2 会場 (301 多目的ホール)

【趣旨・狙い】

【背景】

今後の高齢人口比率の増加から地域包括ケアシステムの構築が急がれている。地域包括ケアシステムとは、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供されることを目指す取り組みである。この実現には、様々な専門職の協働、すなわち多職種連携（Inter-professional Collaboration：以下 IPC）が欠かせない。専門職連携実践は「異なる職歴を持つ多数の医療従事者が質の高いケアを提供するために、患者、家族、介護者、地域社会と共に働くこと」（WHO 2010）と定義されており、多職種が協力してクライアントを支えていくことは世界的に求められている。

近年、認知行動療法は多様な疾患に活用され効果を上げていることは周知のごとくである。そしてクライアントの行動変容を効果の 1 つとしている。現在我々が対応するクライアントの課題は多岐に渡る。その効果判定として行動変容は共通目標の 1 つとなり得、多職種でアウトカムとして共有することにも適していると考えられる。

【趣旨】

IPC を基盤とした包括的アプローチを実践していくために、CBT にはどのような可能性があるのか。地域ケア病棟、地域、老年・維持期（認知症）と、多様な領域で CBT 的アプローチを行っている理学療法士 1 名、作業療法士 2 名の実践報告を基に以下の点でディスカッションしていきたい。

- ◇ CBT は IPC の基盤の 1 つとなり得るか
- ◇ 多様なフィールドにおける CBT の可能性

座 長

高橋 章郎 専門学校首都医校作業療法学科 / NPO 法人ルーツ・ユアセルフ
下岡 隆之 帝京平成大学健康メディカル学部作業療法学科

SY2-1 認知症高齢者における多職種連携と実践

岩切 良太 日南市立中部病院リハビリテーションセンター

SY2-2 認知行動療法的関わりを用いた医師との協働による訪問リハビリテーション
実践報告

福井 真由美 社会福祉法人賛育会賛育会クリニック

SY2-3 地域包括ケア病棟における認知行動療法を行うための仕組み作り

木田 康之 かわな病院

大会企画シンポジウム 3
健康行動に資する認知行動療法

第1日目 8月30日(金) 09:00~10:50

第3会場(601 講義室1)

【趣旨・狙い】

オリンピックも来年にせまるこの頃、認知行動療法で心も体も元気になりましょう！

認知行動療法の魅力は、心と体の両面に働きかけができることです。また、病気に罹患していない、いわゆる“未病”の人にも、健康増進・疾病予防の観点で介入できることも魅力です。

このシンポジウムでは、認知行動療法の健康関連行動への応用を考えます。

食事、運動、生活習慣などさまざまな健康関連行動について、それぞれの介入の力点をお話しいただくと共に、ご高齢者、精神疾患患者さんなど背景特性への考慮、さらには、個人療法から、コミュニティーへのダイナミックな働きかけなど、認知・行動療法的介入のデリバリーの在り方についても議論が展開されることでしょうか。

座長

藤澤 大介 慶應義塾大学医学部医療安全管理部/精神・神経科

菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神・神経科

SY3-1 肥満治療にいかす認知行動療法、そしてマインドフルネス

野崎 剛弘 九州大学大学院医学研究院心身医学

SY3-2 精神疾患患者への健康行動支援

大久保 亮 国立精神・神経研究センター精神保健研究所精神医療政策研究部

SY3-3 生活習慣病の認知行動療法

菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神・神経科

大会企画シンポジウム 4

第三世代認知療法の「なに」が効くのか？

—効果機序の観点から第三世代認知行動療法を読み解く—

第1日目 8月30日(金) 14:05~15:55

第1会場(講堂)

【趣旨・狙い】

趣旨：行動活性化、マインドフルネス、Rumination Focused Cognitive Therapy、メタ認知療法、アクセプタンスコミットメントセラピーといった第三世代認知療法と呼ばれる精神療法が、うつ病をはじめとした様々な精神疾患に対して適応されるようになってきている。

従来の認知行動療法が、思考の「内容」により重点を当てるのに対して、第三世代認知療法は、認知の「機能」や「文脈」により重きをおき、認知機能の質的な変容を目指す点にひとつの特徴があると言われている。

それぞれの精神療法がさまざまな疾患や状態に対してエビデンスを蓄積しつつある。その一方で、それぞれの精神療法がなぜ効果を発現するのか、その効果機序については、広く知られているとは言えない現状がある。

そこで、このシンポジウムではそれぞれの精神療法の専門家を招き、こうした点について議論を深めたいと考えている。

行動活性化の立場からは神人蘭先生（広島大学）に、Rumination Focused Cognitive Therapyの立場からは加藤典子先生（国立精神・神経医療研究センター）に、マインドフルネス認知療法の立場からは二宮朗先生（慶應義塾大学）に、メタ認知療法の立場からは今井正司先生（名古屋学芸大学）にそれぞれレクチャーをいただく。それを受けて佐渡充洋が指定討論の形で議論のポイントを提示する。最後に、シンポジスト全員で、第三世代認知療法の効果機序についての議論を深める。また議論の取りまとめは、座長の岡本泰昌先生（広島大学）に行っていた。

座長	岡本 泰昌 佐渡 充洋	広島大学大学院精神神経医科学 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
SY4-1	行動活性化の臨床応用と効果発現機序	神人 蘭 広島大学大学院精神神経医科学
SY4-2	Rumination-Focused Cognitive-Behavioral Therapyの「なに」が効くのか?	加藤 典子 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター
SY4-3	マインドフルネスに基づいた介入の効果機序及び身体感覚の重要性について	二宮 朗 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
SY4-4	メタ認知療法の観点から読み解く第3世代認知行動療法の効果機序	今井 正司 名古屋学芸大学ヒューマンケア学部／早稲田大学応用脳科学研究所
指定討論	佐渡 充洋	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

大会企画シンポジウム5

拡大する CBT 実践者の育成

第1日目 8月30日(金) 14:05 ~ 15:55

第4会場 (603 講義室3)

【趣旨・狙い】

社会のCBTに対する認知は拡がり、実践者も増加しつつある。質の担保されたCBT実践者のさらなる増加を目指し、本シンポジウムでは、CBTの実践者（看護師、薬剤師、心理士、作業療法士、理学療法士など）を意欲的に育成している現状を発表していただき、多職種が共通基盤としてCBTを用いることで、今後どのような協働・連携ができるか、シンポジウムを通してその可能性を探る。

また、CBT実践者を育成する中で、工夫していることや直面している課題を提示していただき、CBTを基盤とした多職種連携の将来展望を議論したい。

座長	大嶋 伸雄 前田 初代	首都大学東京大学院人間健康科学研究科 CBT-A 服薬支援研究会 / 国立医薬品食品衛生研究所
SY5-1	作業療法士の原点回帰	稲熊 成憲 JCHO 東京新宿メディカルセンターリハビリテーション室
SY5-2	リハビリテーションマネジメントと多職種協働の視点から	木村 圭佑 医療法人松徳会花の丘病院リハビリテーション科

SY5-3 当院における、多職種で CBT を実践する取り組みについて

嶋 宏美 古新町こころの診療所

SY5-4 認知行動療法的アプローチのスキルを用いて患者の心に寄り添える薬局薬剤師を育成する上での課題と将来展望

前田 初代 CBT-A 服薬支援研究会 / 国立医薬品食品研究所

大会企画シンポジウム 6**若手医師・看護師の地方精神科病院での精神療法の実践と普及の取り組み****第 1 日目 8 月 30 日 (金) 14:10 ~ 16:00****第 5 会場 (705 講義室 1)****【趣旨・狙い】**

認知行動療法 (CBT) は 2010 年度にうつ病に対して保険収載され、今日までに不安症、強迫性障害、PTSD、神経性過食症へとその対象が広がった。実施職種は看護師に広がっただけでなく、今後公認心理師による CBT の診療報酬化も予想される。このように本邦における CBT アクセスの向上が図られているが、CBT を実施できる施設や治療者の数は不十分な状態が続いている。厚生労働省 NDB オープンデータによれば、CBT 算定回数の大きい都道府県は都市部に偏っており、患者の CBT アクセスには地域格差があると考えられる。CBT の治療者育成システムとしては、厚生労働省研修事業によるうつ病 CBT 研修、各学会や施設でのワークショップなどが挙げられるが、治療者の CBT アクセスもまた都市部の方が良いと言えるだろう。

本シンポジウムで登壇する演者は、いずれも前述の厚生労働省 CBT 研修事業のワークショップを受講しスーパービジョンを修了しているのみならず、自己研鑽の継続と CBT の普及活動をしている若手精神科医と看護師である。

本シンポジウムの目的は、地方病院・クリニックにおける CBT の実践と普及の取り組みを共有することである。内容は個々の演者の研鑽の過程や、CBT を施設内で根付かせる取り組みから所属施設を超えた普及活動まで多岐にわたる。本シンポジウムを通して「人を結び、チームを育てる」方法について検討したい。

座 長

中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

松岡 潤 東京大学医学部附属病院精神神経科 / 東大宮メンタルクリニック

SY6-1 雪国の田舎で認知行動療法を実践すること

渋谷 直史 酒田駅前メンタルクリニック

SY6-2 地方精神科単科病院における認知行動療法～多職種で関わるという視点から

天野 瑞紀 医療法人社団つくば健仁会とよさと病院

SY6-3 地方精神科病院での精神科医の精神療法の学び、多職種チームでの実践と普及

新川 郁太 医療法人社団新川医院

SY6-4 看護師として地方で認知行動療法をどのように学び、実践し、研鑽していくか

吉永 尚紀 宮崎大学テニユアトラック推進機構

大会企画シンポジウム 7

発達障害を抱えた勤労者を支える支援

第1日目 8月30日(金) 16:05～17:55

第2会場 (301 多目的ホール)

【趣旨・狙い】

近年、企業の障害者雇用の推進に伴い、精神障害および発達障害を抱えた勤労者が増加している。しかしながら、発達障害者の3割は1年以内に離職するなど、職場定着の不安定化が問題になっている。周囲の人々が障害特性を理解し、本人が能力や適性に応じて活躍できるような職場づくりが求められている。

そこで本シンポジウムでは、4名のシンポジストから、各分野の最新の知見をご紹介いただく。平林直次先生(国立精神・神経医療研究センター病院)からは、「大人の発達障害」の特性とそれ由来するうつ病や不安障害、適応障害等の二次性障害について解説していただく。入江美帆先生(トヨタグループ株式会社)からは、特定子会社の現状や従業員を対象とした認知行動モデルに基づくコミュニケーションスキルアップ研修について紹介していただく。田代奈保美先生(飯田橋公共職業安定所 専門援助第二部門)には、企業向けに実施する「精神・発達障害しごとサポーター養成講座」や、その中から見えてきた企業の現状や支援の実情についてお話いただく。そして、川原可奈先生(国立精神・神経医療研究センター病院)からは、心理検査の活用事例やASD、ADHDを対象とした集団認知行動療法の実際をご紹介いただく。

座長

今村 扶美 国立精神・神経医療研究センター病院臨床心理室
田島 美幸 トヨタ自動車株式会社

SY7-1 “大人の発達障害”とそれ由来する2次性障害の包括的な理解の試み

平林 直次 国立精神・神経医療研究センター病院

SY7-2 発達障害に対する企業支援について

(精神・発達障害しごとサポーター養成講座などから見えてきたもの)

田代 奈保美 飯田橋公共職業安定所専門援助第二部門精神障害者雇用トータルサポーター

SY7-3 医療機関における発達障害傾向のある方への支援

ー心理検査、集団認知行動療法プログラムの活用ー

川原 可奈 国立精神・神経医療研究センター病院

SY7-4 企業における発達障害を抱えた勤労者への支援(特例子会社の現場から)

入江 美帆 トヨタグループ株式会社

大会企画シンポジウム 8

慢性痛に対する認知行動療法

第1日目 8月30日(金) 16:05～17:55

第4会場 (603 講義室3)

【趣旨・狙い】

慢性痛に対する認知行動療法(以下CBT)やリハビリテーションなど生物心理社会モデルに基づいた集学的な治療は世界中に広く普及している。わが国でも、これらの治療を実践している医療機関が増加しつつあるもののまだ数は少ない。本シンポジウムでは、実施している数少ない医療機関の中から各分野で活躍されている3名の専門家に慢性疼痛に対するCBTの実践内容と今後の可能性をテーマにお話しいただく。熊本大学麻酔科の田代先生には、医師の立場から、従来の方法では対応の困難な慢性痛の実際、その治療法としてCBTの一つであるマインドフルネスの効果と可能性、さらに心理士との協業の実際と課題についてお話しいただく。福岡リハビリテー

ション病院の許山先生には、作業療法士の立場から、術後早期から介入することによる慢性痛の予防と対策、その効果についてお話しいただく。順天堂大学の松田先生には理学療法士の立場から、世界的な疼痛治療の動向と多職種連携における CBT の重要性、実際の取り組み状況などについてお話しいただく。本シンポジウムでは、それぞれの機関での集学的な診療の経験を報告していただき情報共有を図るとともに、本年新たに国家資格となり、今後協力体制の発展が期待できる公認心理師の役割や連携方法についても議論を深めたい。

座長

柴田 政彦 奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科

稲熊 成憲 JCHO 東京新宿メディカルセンターリハビリテーション室

SY8-1 大学病院ペインクリニック外来セッティングにおける慢性痛患者への認知行動療法導入例の紹介—心理師と共に歩む—

田代 雅文 熊本大学病院麻酔科

SY8-2 整形外科疾患領域における術後患者の慢性痛予防～患者教育の視点と認知行動療法の活用～

許山 勝弘 福岡リハビリテーション病院

SY8-3 慢性疼痛に対する悲観的な思考が腰痛行動を悪化させる

松田 雅弘 順天堂大学保健医療学部理学療法学科

自主企画シンポジウム 1

精神科病院や地域で働く臨床看護師の認知行動療法実践とスーパービジョンの現状と課題

第 1 日目 8 月 30 日 (金) 9:00 ~ 10:50

第 4 会場 (603 講義室 3)

座長

北野 進 東京都立松沢病院看護コンサルテーション室

中野 真樹子 笑む笑む訪問看護ステーション

SS1-1 精神科病院や地域で働く臨床看護師の認知行動療法実践とスーパービジョンの現状と課題

北野 進 東京都立松沢病院

SS1-2 精神科入院医療における看護師による認知行動療法の現状と実践者育成のための課題

矢内 里英 埼玉県立精神医療センター

SS1-3 地域で働く臨床看護師として 訪問看護師としてできる認知行動療法

富樫 剛清 笑む笑む訪問看護ステーション

SS1-4 認知症の家族支援を対象とした認知行動療法 スーパービジョンを受けての訪問看護師の実践と課題

石川 博康 東京都立松沢病院社会復帰支援室訪問看護

SS1-5 看護師に対するグループスーパービジョン教育研修

岡田 佳詠 国際医療福祉大学成田看護学部

SS1-6 精神科看護師が行う認知行動療法の展望

則包 和也 弘前大学大学院保健学研究科

自主企画シンポジウム 2

様々な領域における集団認知行動療法の工夫とその援用可能性

第1日目 8月30日(金) 14:10~16:00

第6会場 (706 講義室 2)

座長

中島 美鈴 九州大学大学院人間環境学府

SS2-1 産業分野・リワークプログラムにおける工夫

伊藤 さやか 東京海上日動メディカルサービス株式会社

SS2-2 司法矯正領域における集団認知行動療法の実践についての一考察

中原 由望子 大阪物療大学保健医療学部

SS2-3 物質使用障害 地域の精神科クリニックの場合

大野 慶明 医療法人社団榎会新大塚榎本クリニック

自主企画シンポジウム 3

私たちは“心”をどう見るか — 認知行動療法の哲学

第1日目 8月30日(金) 16:10~18:00

第6会場 (706 講義室 2)

座長

東 斉彰 甲子園大学心理学部

若井 貴史 長岡病院／認知療法研究所／関西福祉科学大学 EAP 研究所

SS3-1 比較文化思想論からみた認知療法・認知行動療法、または心の認識論

東 斉彰 甲子園大学心理学部

SS3-2 問いの内在化—認知療法の過程は古代ギリシャ哲学の発展史をくり返す—

若井 貴史 長岡病院／認知療法研究所／関西福祉科学大学 EAP 研究所

SS3-3 認知行動療法の「二つの心」

榊原 英輔 東京大学医学部附属病院精神神経科

SS3-4 現場での心理支援に見る心—統合折衷的または多元的アプローチから考える—

加藤 敬 こども心身医療研究所・親と子の診療所

ケーススタディ 1

第1日目 8月30日(金) 13:00～14:00 第5会場(705 講義室1)

CS1 社交不安と醜形恐怖により生活に支障をきたしている成人男性への認知行動療法の一例～外来と訪問看護が連携して実施する CBT～

座長 中野 真樹子 笑む笑む訪問看護ステーション
渡部 亜矢子 公益財団法人正光会広小路診療所

演者 田上 博喜 宮崎大学医学部看護学科

ケーススタディ 2

第1日目 8月30日(金) 13:00～14:00 第6会場(706 講義室2)

CS2 復職への強い不安を呈するうつ病患者へのブレンド型認知行動療法プログラム(インターネット支援型対面セッション)の実践

座長 北川 信樹 医療法人ライブフォレスト北大通こころのクリニック
宗 未来 東京歯科大学市川総合病院

演者 梶原 真智子 慶應義塾大学医学部精神・神経科科学教室

ケーススタディ 3

第1日目 8月30日(金) 16:10～17:10 第5会場(705 講義室1)

CS3 就労移行支援における不合理な信念に対する短期的緩和介入

座長 中野 有美 南山大学人文学部心理人間学科
石川 博康 東京都立松沢病院社会復帰支援室訪問看護

演者 秋山 洸亮 一般社団法人リエンゲージメント

一般演題(口演) 1

精神疾患・発達障害

第1日目 8月30日(金) 10:00～11:00 第5会場(705 講義室1)

座長 田上 博喜 宮崎大学医学部看護学科
01-1 成人期注意欠如・多動症の集団認知行動療法の効果に影響する要因

中島 美鈴 九州大学大学院人間環境学府

01-2 成人期後期に精神病症状を体験した人との心理面接～協同作業への招待と
プロトコルのカスタマイズについて～

羽鳥 乃路 精神医学研究所附属東京武蔵野病院

01-3 音声チックが主症状のトゥレット症候群の40代女性に認知行動療法を試みた一例

中嶋 愛一郎 国立精神・神経医療研究センター病院

一般演題（口演）2

産業・司法・アセスメント

第1日目 8月30日（金） 10:00～11:00

第6会場（706 講義室2）

座長

田島 美幸 トヨタ自動車株式会社

O2-1

超簡易型認知行動療法を活用した中小企業における一次予防の効果
～自由記載内容の質的分析～

石橋 佐枝子 敦賀市立看護大学

O2-2

体験学習サイクルの内在化を意図した「オリジナル・リフレクションシート（RFS-ELC）」の開発と活用事例および今後の展望

石川 国広 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院／環境・社会理工学院

O2-3

認知行動論的に問題行動を振り返ることで自己理解を深めた統合失調症患者の事例報告～医療観察法病棟での関わり～

太田 真貴 国立病院機構鳥取医療センター